



【NO. 8】2025 年 冬

本願寺吉崎別院だより よっさきさん

発行

## 本願寺吉崎別院

〒922-0679

福井県あわら市吉崎 1-201

電話/FAX: 0776-75-1903

### 輪番交代のご挨拶

6月1日より吉崎別院輪番を拝命いたしました松本隆英でございます。歴史ある吉崎別院の輪番ということで、身の引き締まる思いです。

現代社会は一極集中、少子高齢化、核家族化だけでなく特にコロナ禍以降、人々の意識や価値観の変化もあり、お寺を取り巻く状況は大きく変わってきていますが、これまで吉崎別院をおまもりいただいた僧侶、門信徒の皆様とともに別院の護持と繁栄に精一杯つとめさせていただく所存です。

皆さま方のご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



### 「蓮如さんごう」 支援の輪広がる

吉崎別院の財政基盤を支援するため、令和5年度に活動を開始した新しい護持団体「蓮如さんの吉崎西別院讃仰会（略称 蓮如さんごう）」が発足から一年あまりが経過し、その支援の輪が着実に広がっています。

今年3月には、全教区の門徒宗会議員の皆さまがご入会くださったほか、多くの僧侶宗会議員の皆さまにも、ご自坊の宗教法人会員として、または個人会員としてご入会いただきました。現在の会員数は、個人会員109名、宗教法人会員42名、企業会員2名を数えるまでとなりました。

また、令和5年度・6年度には「蓮如さんごう」様より吉崎別院へそれぞれ50万円のご寄付をいただき、誠にありがとうございました。申しあげます。

### 運営遅延のお詫びとご入会のお願い

一方で、事務局担当者が7月1日に境内除草作業中の事故により長期入院をすることとなり、現在、運営に遅延が生じております。ご入会の皆さまにはご迷惑とご心配をおかけしてまいりますこと、深くお詫び申し上げます。一日も早い正常な運営への復帰に向け、努めておるところです。

当会では、引き続き吉崎別院の護持発展のため、皆さまのご入会をお待ちしております。詳しくは当別院までご連絡ください。

### 甘酒でほっこり年越し 吉崎の除夜の鐘と初参り

左記のとおり除夜会（除夜の法要）と、元旦会（元旦の法要）をお勤めいたします。除夜会の後、当別院の除夜の鐘をお突きただけます。続いて元旦会ではお正信偈を日常の勤行として制定された地で、新年の最初にご一緒にお勤めをいたします。甘酒をご用意してお待ちしております。ぜひともお参りください。

【除夜会】中宗堂 午後10時半より  
本堂 午後11時より（重誓偈作法）

【元旦会】本堂 午前0時より（正信偈行讃）  
中宗堂 本堂終わり次第

### 蓮如さんの吉崎西別院讃仰会

住所：〒922-0679 福井県あわら市吉崎 1-201 本願寺吉崎別院内

電話/FAX: 0776-75-1903 メール: info@rennyo-sangou.com

ウェブサイト: <https://rennyo-sangou.com>

銀行口座：福井銀行 大聖寺支店 普通口座 531-6033589

口座名 蓮如さんごう（レンニョサンゴウ）

地震に強い  
金属屋根の北川



〒918-8543  
福井県福井市問屋町 2-65  
☎ 0776-22-2694  
[FAX] 0776-21-8186

(有)庭研ふくい

〒910-2161  
福井県福井市脇三ヶ町23-2  
電話・fax 0776-41-3901



## 蓮如上人のお言葉より

前々住（蓮如）上人御病中に、兼譽・兼縁御前に伺候して、あるとき尋ね申され候う。冥加といふことは何としたることにて候うと申せば、仰せられ候う。冥加に叶うというは弥陀をたのむことなるよし仰せられ候うと

（蓮如上人御一代記聞書 第二〇六条）

【現代語訳】蓮如上人が御病中のお見舞いに兼譽（蓮如上人第六男）さまと兼縁（同第七男）さまが御前にうかがいなされて「冥加とはどんなことでしょうか」とお尋ねになりました。それに対して「冥加に叶うとは阿弥陀さまをたのみとすることである」と仰せにられたということです。

『蓮如上人御一代記聞書』を拝読してありますと、上人が折にふれて「冥加」という言葉を使われていることに気づきます。「冥加」とは、私たちの目には見えない「仏さまのお力添え」や「ご加護」といった意味の言葉です。

しかし、不思議なことに、この「冥加」という言葉は、浄土真宗の教義をあらわす言葉ではありません。親鸞聖人の御著書はもとより、上人自らがお書きになった『御文章』の中にさえ、この言葉は出てこないのです。しかし「生のお言葉」として上人のおそばにおられた方々が書き留めた上人の語録の中には、たびたび出てくるのです。

だからこそ、いつも上人のそばにおられた兼譽様や兼縁様といったご子息たちでさえ、ある時あらためてお尋ねになったのでしょうか。「お父上、

あなたがいつもおっしゃる冥加とは、冥加にかなうとは、いったい何のことでしょうか」と。

先に掲げた今回のお言葉は、まさにご臨終も間近というご病床での、そんなやり取りを記したものです。ご子息方の問いに、上人ははっきりと、「それは、阿弥陀さまをたのおことだ」とお答えになりました。

「弥陀をたのおむ」とは、阿弥陀さまのご本願のお救いをこそ、そのまま「たのみ」とすること、つまり私たちが阿弥陀さまから「信心」をいただくことです。上人は、「冥加」という言葉に、「ご利益」や「幸運」といった意味ではなく、「お念仏をいただくこと」という、浄土真宗の教えのかなめともいえる、それほどまでに大きな意味を込めておられたのでした。

同じご病床の中でご自身の若く貧しかった頃の困難な生活から、楽に生活をしていける現在の豊かな有り様までを振り返られて昔語りをなさっておられますが、上人は折々の思い出の中にたびたび「冥加」という表現を使っておられます。今まで出あい別れた方々、または「冥衆」と呼ばれる森羅万象にひそむ定かには知られないような存在や、目の前にいたただく食事や着物、廊下に落ちた紙切れの中からさえも、そのすべてのご縁の中に、如来さま親鸞さまのお導きとして、ありがたき恩として「冥加」を味わっておられました。

逆境の中でも「冥加」を感じつつ暮らした昔を懐かしみ、順境の中でもすれば忘れがちなになる「冥加」の大切さをご子息方にお諭しになる上人のお姿は、「もっと良いご加護がありますように」と新たに願うのではなく「冥加にかなう」ことの中に幸と不幸の本質を見出されていたのだと思わ

れます。

「禍福は糾える縄の如し」と申します。幸運には必ず不幸の種を宿し、不運には必ず幸福の種を宿す。幸運と不運を超えたところにこそ私の求める幸福が存在しているのではないのでしょうか。幸運の追いを求め、たとえそれらがすべて実現しつづけたとして、幸福になれる保証などどこにもないのです。

今、この私の上に、すでに仏さまからののはたらきかけが「冥加」として様々な形と姿で私に届いているのだと、注意深くいただき、敬い、そこに聞いていく。それが、蓮如上人の「冥加にかなう」生き方であったのだと、味わうのでございます。

## ご懇志のお振替 / お振込

【ゆうちょ銀行からのお振替】

記号・番号：00780-7-4561

【ゆうちょ銀行以外の金融機関】

ゆうちょ銀行 ○七九店〈当座〉  
0004561

※ yossaki@mx3.fctv.ne.jp 宛にお名前とご住所のご連絡をお願いいたします。

